

からっぽ

井上 明紀

登場人物

ミズノ

イイオ

サカタ

どこかの施設。

風が吹き抜ける地下室のような音がする。

商業施設のバックヤードなのか、オフィスビルなのか、建物の詳細については一切わからない。

ただ、扉が三つ存在している。物語にはあまり登場しないが、防災センターと出入り口、仮眠室とシャワールームが存在している。それ以外のことを登場人物たちも知らされていない。

イイオとミズノが立哨をしている。

ミズノは時々、時間を確認する所作をするが、彼の腕に時計はついていない。

地下を思わせる音が鳴り響いている。

ミズノ 入ったことあります？

イイオ ない。ご契約先からの許可が必要だし、入っちゃいけない。

ミズノ へえ、そっすか。

イイオ 入りたい？

ミズノ 別にどうでもいいっすけど、何があるんかなって。

イイオ ここには、ご契約先の財産があるよ。

ミズノ 財産って、何すか。

イイオ あー、教えられてない。

ミズノ そっすか。今、何考えてますか？

イイオ 今、ここに賊が来たらって考えてるよ。

ミズノ どうするんすか。もし来たら。

イイオ 来たら、防災に報告して、声かけする。

ミズノ え、どうやって。

イイオ あー、無線とかピッチで連絡をまずする。

ミズノ 持っていないんすけど、どうするんすか。

イイオ どうする。

ミズノ え、知らないんすか。

イイオ あー、教えられてない。

ミズノ じゃあこのままだと、イイオさんは賊を見つけても何もしいつ

てことっすね。

イイオ ああ、どうしよう。怒られる。

からっぽ

ミズノ 怒られるで済むんすか？
イイオ ああ、どうしよう。クビになる！
ミズノ 僕は全然、むしろクビにしてみらいたいっす。

イイオ、突然走り出して扉の施錠点検をする。

イイオ （それぞれの扉に触りながら）施錠よし！

ミズノ 扉に触んなくて言われてるんすけど。

イイオ でも、僕たちは施錠点検しないといけないし。

ミズノ 触んなくて言われてるのに？

イイオ 施錠点検することが警備員の仕事だよ。

ミズノ サカタさんにチクっていいっすか。

イイオ あー、チクられたら怒られるのかなあ。

ミズノ でも、正しいことしてるんでしょ。

イイオ うん、立哨、出入り管理、巡回が僕らの仕事だから。

ミズノ え、施錠点検は？

イイオ うん、施錠点検はとても重要だから、覚えておいたほうがいいよ。

ミズノ はい。

イイオ でも、ミズノくんは、このあいだ入ってきたばっかだけど、やっぱ

り、この仕事、面白くないって思ってる？

ミズノ ぶっちゃけ面白くないでしょ。誰がどう見たって、クソ中のクソで

しょ。

イイオ みんなそう言うけど、でも、誰かがやらないといけないし。

ミズノ あ、綺麗事とかいいっす。

イイオ 綺麗事。

ミズノ で、イイオさん。なに考えてるんすか。

イイオ

ミズノ イイオは硬直している。

イイオ

ミズノ 女っすか。

イイオ 女の子のことなんて、僕、考えてないよ。

ミズノ またまたー、嘘とかいららないんでマジ。ホントお願いしますよ。

イイオ 女の子のこと考えて仕事なんてしたら、もう、仕事にならない。

ミズノ いや、考えてるでしょ。

イイオ

ミズノ イイオをじっと見る。

イイオ

ミズノ イイオさん、今何時っすか。

イイオ 仮想時間、十三時五十九分。

ミズノ 仮想時間なんてどうでもいいですよ。普通の時間を知りたいんです。

イイオ わかんない。

ミズノ わかんないっすかー。この職場は先輩が時間すらわかんないと。
 イイオ 今は仮想時間十三時五十九分。

ミズノ そこから仮想を抜いてください。

イイオ ダメ！ 時計はつけてはいけません。時間は仮想時間が使われて
 る。時計はつけてはいけません。時間は仮想時間が使われてる。

ミズノ うわー！ もうクソすぎる！ 時間が知りたいよう！

イイオ 大声出したらクレームが来るよ。

ミズノ 出せるもんなら出してもらいたいっすわ。

イイオ とにかく、今は仕事だから。大声はいけないことだと思っよ。

ミズノ イイオさんは、何も思わないんすか？ 時計をつけるな、スマホは
 預けるって、超人権侵害っすよ。仮想時間って何すか。いよいよ時

間まで仮想化されたんすか。んなわけないっすよね。だとしたら歴史の教科書に載る大事件ですしね。

イイオ でも、ご契約先が求めていることだから。

ミズノ 何のために。

イイオ あー、わかんない。サカタ隊長に聞いたらいいと思うよ。

ミズノ わかりました。イイオさんが知らないんで、サカタさん教えてください

さいって言います。

イイオ そしたら怒られる！

ミズノ でも、僕間違ったこと言ってませんけど。

イイオ でも、サカタ隊長はいつも僕のことを怒る。

ミズノ へえ、お疲れっす。

イイオ あ、今は仮想時間十四時一分だよ。

ミズノ あ、はい。

イイオ どんな考え事してたの？

ミズノ 明日合コン、どんな服装よつかとか、今日飯食い忘れたな、とか。

イイオ 仕事のことじゃないんだ。

ミズノ え、仕事のこと考えてるんすか？

イイオ (間を置いて)ちよつとだけ。

ミズノ マジで考えてるんすか。頭おかしいでしょ。

イイオ おかしいよね、女の子のことばっか考えてるって。

ミズノ あ、仕事のこと考えてないんすね。

イイオ 考えてるよ！

ミズノ うーわあ、どんな妄想してるんすか。

イイオ もし、ここにキレイな人が来たら、嬉しいな、とか。

ミズノ うわ。

イイオ うん、おかしいよね。女の子のことばっか考えてるって。

ミズノ ムラムラしてます？

イイオ ムラムラなんかしてない！

ミズノ でも、仕事帰りに風俗行きたいって思いませんか？

イイオ 仕事帰りだと制服持つてるから、寄り道はできない。

ミズノ だから仕事中にシコってるんすね。
 イイオ そんなことしてたら、仕事時間終わっちゃう。
 ミズノ は、言い過ぎでしょ。
 イイオ でもこの仕事は時間にもものすごく厳しいから、ちゃんと決まった場所に決まった時間いなくちゃいけない。
 ミズノ イイオさん、絶倫すね。
 イイオ あー、そうなのかな。
 ミズノ 童貞で絶倫すか。天は二物与えましたね。
 イイオ 童貞じゃない。
 ミズノ エロいっすね。
 イイオ エロくない。
 ミズノ ついでに臭いっすね。
 イイオ 臭くなんかない！
 ミズノ 風呂入ってますか？
 イイオ だって、昨日から家に帰ってないし、お風呂になんか入れないよ。
 ミズノ シャワーあるでしょ。正直寝る前、入って欲しいんですけど。
 イイオ あー、シャワーかあ。
 ミズノ お願いですから、入ってください。
 イイオ シャワーかあ。

イイオ、先ほど以上に悩む。

イイオ シャワーかあ。
 ミズノ そこ悩むとこすか？ いやいや、みんな困ってるんすよ。隊長もミウラさんも、いい加減にしてくれて言ってますよ。隊長もミサカタ隊長が！
 イイオ その内また怒られますよ。
 ミズノ ああ、嫌だなあ。怒られたくない。
 ミズノ だから入ってくださいよ。
 イイオ でも、ミウラさんがそんな怒ってるなんて、考えられないよ。
 ミズノ はい？
 イイオ だってミウラさんは人のことを言えた義理じゃないし。
 ミズノ ミウラさんはシャワー、毎回浴びてから仮眠しますけど。
 イイオ でも、今日も無断欠勤だし。
 ミズノ いや、無断欠勤関係ないでしょ。話逸らさないてくださいよ。
 イイオ ごめん。
 ミズノ まあ、いいですけど。居場所なくすのイイオさんですし。
 イイオ 居場所なくなるのは困る！

イイオの大声に、ミズノは驚く。

ミズノ

え。居場所なくなるのは、困る。

イイオ

そっすか。

ミズノ

ミズノくんは、次のこととか考えてるの？

イイオ

長いことは居ないっすね。無駄でしょ。

イイオ

無駄って。

ミズノ

突っ立ってるだけで、クソ暇じゃないですか。面白くないんすよ。

イイオ

でも、誰かがやらないといけない仕事だよ。

ミズノ

いらないでしょ。何でこんなところ、二人で立たなきやいけないんですか。一人でいいでしょ。

イイオ

それは、営業が決めたんだし。

ミズノ

使えねえ営業だな。

イイオ

どうして二人にしたんだろう。

ミズノ

どうでもいいっす。

イイオ

ミズノくんは、この仕事、やっぱりクソだって思ってる？

ミズノ

クソでしょ。クソ中のクソ。あー、もっとカッコいい仕事にすりやよかった。

イイオ

例えば、自衛官とか、人の役に立つような仕事、とか。

ミズノ

は、嫌ですよ。そんなだるい仕事。

イイオ

じゃあ、わかんないなあ。

ミズノ

あるでしょ。カッコいい仕事。考えてくださいよ。クリエイティブな仕事がいっすね。インスタでインフルエンサーやったりユーチューバーで広告収入稼ぎたいっすねえ。

イイオ

あ、カッコいい。

ミズノ

芸能人とかと知り合えるような仕事がいっすよね。

イイオ

芸能人なら、ウチでも仕事ある。

ミズノ

そうなんすよねえ。芸能人の警備は、一回やってみたいんですけどねえ。一回やってから、辞めよっかなあ。

イイオ

やっぱりみんな、この仕事クソだって思ってるんだね。

ミズノ

逆にこの仕事真面目にやるメリットって何すか。マジ面白くねえだけっすよ。

イイオ

考えたことないや。

ミズノ

俺、ここに入って突っ立ってるだけすよ。世界で一番クソな仕事じゃないすか？ 逆にこの仕事の面白さ、教えてくださいよ。

イイオ、逃げるように扉の施錠確認を始める。

イイオ

(扉に向かって) 施錠よし！

いつのまにかサカタが登場している。

彼は会話の一部始終を聞いていた。

サカタ お前、何で施錠点検してるんだよ。

イイオの体が硬直する。

イイオ 警備員なので、施錠点検しなければならぬと思いました。

サカタ この扉は、触れちゃって教わったか！

イイオ 触るなと教わりました！

サカタ 何で触った！

イイオ はい、でも警備員は施錠点検をしなければならぬので。

サカタ ボケカス！ 死ね！

イイオ (美しい敬礼動作で) 申し訳ありませんでした！

サカタ ミズノ！ お前の態度もな！ なってねえ！

ミズノ すんません。勘弁してください。

サカタ は。

ミズノ 足がもう痛いんです。ずっと立ちっぱなしで、文句言っちゃいけないんですか。

サカタ きつちり立ってねえだろが。

ミズノ 精一杯やってるんです。

サカタ 甘え。仕事に対しての認識がよ。全然なんだよ。

ミズノ 拷問じゃないですか。時計も見ること禁止されて、マジでここは僕ら

に、何したいんですか？

イイオ あ。ミズノ君。サカタ隊長は上司だよ。

ミズノ サカタさん、時計くらいつけられないんですか？ 僕もう限界つす

よ。

サカタ 根性ねえな。

サカタ

サカタ

サカタ、無線機を持つ。

サカタ

サカタ

えー、こちらサカタです。相談なんですけど、時計を持たせてもら

えないでしょうか。ご担当者の方、お考えください。

無線

無線

無線機を戻すサカタ。

サカタ

ほれ、言っちゃったぞ。

ミズノ 誰に。

サカタ 契約先にだよ。

ミズノ はあ、どうも。意味あるんですか。

サカタ 知らん。けど、こういう決まりだからな。

ミズノ

そうなんすね。

サカタ まあ、優しくすんのは今のうちだけだからな。なあ、イイオ。

イイオ はい、申し訳ありません。

サカタ お前どういいう教育してんだ。

イイオ 申し訳ありません(と、美しい敬礼動作をする。そこからしばらく頭を上げない)。

サカタ 後輩の不手際はテメエの不手際だろ。で、お前の不手際は誰の不手際だ？

イイオ はい、自分の不手際はです！

サカタ は？ お前の不手際は、俺の不手際なんだよ。お前がしくつたら俺が怒られるんだよ。

イイオ はい、申し訳ありませんでした。

サカタ で、お前はこういう教育してんだ。

イイオ はい、アドバイスを送っていました。

サカタ ミズノ、どんなアドバイスをもらった？

ミズノ えーつと、別に何ももらってないっすねえ。

イイオ 何でそんな事言うの。

サカタ イイオ！

イイオ いや、言ってます。

ミズノ だって、僕が何を訊いても、知らないって。

サカタ お前、何年警備員やってんだよ。あー、人選間違えた。

イイオ でも、僕以外誰もいませんし。

サカタ だから、お前にしつかりしてもらわねえと困るって、何回言った。

お前がミスをする度、俺はもう何回お前を庇った。

イイオ 申し訳ありませんでした！

イイオ、パニックになって扉の施錠点検をやろうとする。

サカタ 触んな！ まだわかんねえか！

イイオ、硬直する。

サカタ ミズノ、休憩行け。

ミズノ はい。

イイオ あ、休憩か。

ミズノ はい、休憩ですけど。

サカタ ほら、さっさと行け。

ミズノ はい。

ミズノが立ち去る。

イイオは硬直したまま動かない。

サカタ お前はいつまでそこでぼーっと突っ立ってんだ！ どこで立つて教わった！

イイオ、急いで所定の位置に戻る。

サカタ 気をつけえ！

気をつけの姿勢をとるイイオ。

サカタ 休めえ！

イイオ、休めの体制で頭を下げる(90度くらい)。

サカタ 誰が頭下げろって言った。
イイオ 申し訳ありませんでした。

と、ここで頭を下げるべきか否かでキテレツな動きを見せるイイオ。

イイオ 申し訳ありませんでした！
サカタ お前の不手際は。
イイオ サカタ隊長の責任です！
サカタ じゃあ、ちゃんと仕事しろ。
イイオ 申し訳ありませんでした。

しばらく二人、黙って立哨する。

イイオ あの、サカタ隊長。
サカタ どうした。
イイオ 仮想時間は、まだ十五時になっていないのですが。
サカタ それがどうした。
イイオ じゃあ、施錠点検をしてはいけない件についてですが。
サカタ しつこいな。まだ納得できねえか！ 触んнатてのに何で触るんだよ！

イイオ 申し訳ありませんでした。
サカタ お前の不手際は！
イイオ サカタ隊長の責任です！
サカタ よくも俺の顔に泥塗ってくれたな！
イイオ 申し訳ありませんでした！
サカタ お前これで何百回目だ！

イイオ 九十三回目です！
 サカタ うるせえ！ だから正社員に戻らねえんだよ！
 イイオ 正社員に戻るにはどうすればいいんでしょうか。
 サカタ ちゃんと仕事しろ。いい加減な、お前庇うの疲れたんだよ。
 イイオ 申し訳ありませんでした！

イイオ、機敏な動作で立哨の姿勢に戻るが、ぶつぶつ何かをつぶやき始める。

イイオ サカタ隊長の迷惑にならないようにしなくちゃいけない。でもどうすればサカタ隊長は迷惑に思わない。サカタ隊長に責任を負わせちゃいけない。どうしたら負わせない。あー、うううううう。

サカタ うるせえよ。立哨しながらぶつぶつ言うな！

イイオ じゃあ、ミウラさんの責任は、誰がとるのですか。
 サカタ は。

イイオ じゃあ、ミウラさんの責任は、誰がとるのですか。

サカタ ミウラが今、何の関係があるんだよ。

イイオ あの、今日の無断欠勤の責任をやっぱりとらなきゃって。

サカタ (少し落ち着く、というより遠い目をして)ミウラの責任は、ミウラのもんだ。

イイオ どうしてですか？

サカタ アイツの方が階級が上だからだよ。

イイオ でも、ミウラさんは万年平社員。

サカタ 当たり前だろ。

イイオ サカタ隊長は、ミウラさんより立場が上ですし。

サカタ 何が言いたいんだよ。

イイオ いや、気になって。

サカタ ミウラはな、大人としてクズなんだよ。

イイオ 大人としてクズ。

サカタ だからな、アホらしくてアイツに怒りたくない。

イイオ え、そうなんですか。

サカタ そりゃそうだろ。無断欠勤するわ、仕事ミスするわ、やる気ないわ。あ、報告すんの忘れてた。

サカタ、無線を飛ばす。

サカタ すいません、報告です。本日隊員一名病欠なんで、昨日の当務員で補充します。勤務に現在異状はございません。以上。

無線 了解です。

イイオ ああ、報告。

サカタ 一応な。必要かどうかからねえけど、後で言われるよりマシだろ。

イイオ 報告って、やっぱり大事だと思います。

サカタ 仕事をよく見とけよ。俺だっていつまでも居るわけじゃねえんだ。

イイオ どこか異動の話があるのですか。

サカタ ねえよ。これから来るんだよ。会社はな、絶対に必ず正しい評価を

してくれる。だからよ、お前もっと頑張れ。

イイオ はい。

サカタ お前も、出世したいだろ。

イイオ したいです。

サカタ でもな、出世してもミウラみたいに中途半端な奴になられても困

るんだよ。育てた俺の評価も下がるしよ。

イイオ サカタ隊長は、ミウラさんのことが、やっぱり嫌いなんですか。

サカタ 死んだらいいんだよ。あの野郎、どんな面して来ることやら。

イイオ 連絡はついたのですか。

サカタ つかねえよ。

イイオ また寝てるんですかね。このあいだも、朝の九時上番なのに、二十

時に来たことありましたよね。

サカタ 周りがアイツを甘やかしすぎたんだよ。

イイオ でも、子供がいますよね。

サカタ あんな奴に育てられる方もたまつたもんじゃねえよ。

イイオ ミウラさんでも育てられるんですね。

サカタ 育ててねえだろ、多分。

イイオ 僕も子供が欲しいです。

サカタ バカ、夢なんて見るな。

イイオ やっぱり僕なんかじゃダメなんですかね。

サカタ そりゃそうだ。まず鏡見ろ。シャワー浴びろ。

イイオ 僕、やっぱり臭いですか？

サカタ 分かってんならシャワー浴びろよ。制服もフケだらけでよ、汚ねえ

イイオ あー、やっぱり奇麗にした方が、モテるんでしょうか。

サカタ 当たり前なこと言うなよ。お前、汚え女抱けるか？

イイオ ああ、嫌だ。

サカタ だろ。女も同じこと思ってるに決まってるだろ。

イイオ 階級章もちゃんと磨いた方がいいですね。

サカタ それは、別に。まあ、身なりは整えろってことだ。

イイオ あー、そっか。どうしようかなあ。

サカタ あ、何が。

イイオ 実は、来週女の人と、デートする約束してるんです。

サカタ やめとけ。騙されてるぞ。

イイオ いや、ちゃんとした人なんです！

サカタ どこで知り合った。

イイオ m i x i です。

サカタ やめとめやめとけ。どうせ変な勧誘だよ。

イイオ ああ、悲しくなってきた。

サカタ 夢は見るなって、言っただろ。

イイオ 夢なんですかね、やっぱり。

サカタ まあいいや。お前歳は。

イイオ 三十八です。

サカタ はあ。お前がねえ。

イイオ で、僕、何買ってあげた方がいいでしょうか。

サカタ 買う？

イイオ やっぱり女性は、何かを買ってあげたら喜ぶらしいですし。

サカタ 何か買うってなあ。

イイオ やっぱりネックレスとかですかね。調べたんですけど、カナル4。

サカタ Cってブランドが喜ばれるらしいんですけど。

サカタ バカか。初対面の人からネックレス貰うとか気持ち悪すぎるわ。

イイオ え、気持ち悪いですか。

サカタ ないわ。お前ない。

イイオ でも、すっごく喜ぶと思いますし。

サカタ いいか、絶対買うなよ。

イイオ わかりました。何も買いません。

サカタ だから、俺が言いたいのはそう言うことじゃなくて！

イイオ でも、今買うなって。

サカタ 買うにしても、ちよつと考えろってことだよバカ。

イイオ 考える。

と、イイオは硬直する。

イイオ あー、わかんなくなってきたよう。

サカタ 諦める。

イイオ でも、両親もそろそろ出て行けって。

サカタ 出て行ったらいいじゃねえか。お前もうすぐ四十だろ。

イイオ あと二年です。

サカタ 一人で暮らせ。

イイオ はあ、一人暮らしですか。

サカタ あのな、所帯持つってな、ゲーム持つのと同じ感覚じゃねえんだよ。

サカタ 周りが持つてるからって羨ましがるもんでもねえ。持てるヤツ、持

てねえヤツがいるんだよ、つまり。

イイオ でも、そしたら孤独死するかもしれない。ニュースになったりする

サカタ んでしようか。

サカタ 知るかボケ。こっちはお前が孤独死しようがしまいがどうでもい

イイオ なんだよ。

イイオ はい。

沈黙。

イイオ サカタ隊長は、どうやって結婚したのですか。
サカタ たまたま、タイミングがあつたんだよ。昔からのツレだったしな。
イイオ あー、羨ましい。
サカタ 諦める。

ミズノが登場する。

ミズノ サカタさん、ミウラさんから電話ありましたよ。
サカタ マジか。アイツ何してた。
ミズノ さあ。僕、電話に出てませんし。
サカタ じゃあミウラかどうかわかんねえだろ。
ミズノ いやあ、ミウラさんつす。多分。
イイオ ミズノ君、そんな言い方まずいよ。
ミズノ まだ僕、電話の出方教えてもらってませんし。
サカタ どいつもこいつも、使えねえな。

サカタは立哨をやめ、戻ろうとする。

イイオ あの、サカタ隊長。
サカタ 何だよ。
イイオ まだ立哨終わりの時間じゃありません。
サカタ 俺は、お前らの尻拭いで忙しいんだよ。考えろ、馬鹿。
イイオ はい、申し訳ありませんでした。
サカタ (ミズノに) お前立ってる。
ミズノ は？

サカタが去る。

ミズノ イイオさん、さっきの時間休憩つしたよね。
イイオ うん。
ミズノ まあ、頑張ってください。
イイオ うん。仮想時間十九時から休憩だから、あと三時間三十分。頑張ろう。
ミズノ 昨日から帰らずに働いて、今どんな気持ちっすか。
イイオ あー、わかんない。
ミズノ しんどいとかないんすか？
イイオ わからない。わかんない。こんなに長い時間立ったのは、初めて。
その前は臨時警備で五時間立ったのが一番長かった。

ミズノ
トイレ行きたくならないんすか。
イイオ うん。行きたい。

ミズノ クソ上司っすね、サカタさん。
イイオ うん、やっぱりクソなのかなあ。

ミズノ いやあ、パワハラもいいところでしょ。
イイオ パワハラ、パワハラ、パワハラ（とぶつぶつ繰り返す）。

ミズノ あのー、帰ってきてください。
イイオ ごめん。

ミズノ 今、何考えてました？
イイオ 別に何も考えてないよ。

ミズノ またまたー。頭の中で隊長ぶつ殺してたでしょ。
イイオ あー、やっぱりおかしいのかな。たまに止まらなくなるんだ。

ミズノ イイオさん、サイコパスっすね。
イイオ あー、そうなのかな。でも、人を殺したいとか思ってもやったこと
ないけど。

ミズノ 人殺したいんすか。
イイオ あ、ううん。人は殺してはいけない！ 虫だけ！

ミズノ やば。
イイオ やばい。

ミズノ やばいっすよ。だって先輩、スペシヤルじゃないですか。
イイオ スペシヤル？

ミズノ この間観た映画の話っす。
イイオ ああ、映画は全然観ないからわかんない。とても、いい言葉だね。

ミズノ ありがとう。
イイオ スペシヤルっすね。

ミズノ 久しぶりに、褒められた。
イイオ あ、そっすか。

ミズノ 僕も、ミズノ君を褒めた方がいいのかな。ねえ、どうだろう。
イイオ いや、イイオさんに褒められても嬉しくないっす。

ミズノ 嬉しいよ、褒められると。
イイオ イイオさん、マジでスペシヤルっすよ。

イイオ、硬直する。

ミズノ イイオさん、今、何を考えてます？
イイオ わからない。

ミズノ ここにもし、賊が来たら。
イイオ あー、それは困る。

ミズノ マジで先輩、警備員向いてないっすわ。僕もですけど。
イイオ え、向いてないかな。

ミズノ 向いてると思ってるんすか？ スペシヤルだし、何かやらかしそ

う感持ってるし。

イイオ あー、それ言われたことある。確か平成二十二年の、九月八日。ミウラさんに言われた。お前はいつか、何かをやらかすって。前の現場の時の話。

ミズノ やらかしたんすか？

イイオ それは、言いたくない。

ミズノ 何ですか。いいでしょ、ちよつと言うくらい。

イイオ 嫌だ、絶対に言いたくない。

ミズノ マジダルいわあ。

イイオ え、僕ダルい？

ミズノ ダルいっす。

イイオ、硬直する。

ミズノ まあ、多少聞いてますけど。
イイオ どの話。

ミズノ 銀行の金庫に勝手に入って、閉じ込められた話。

イイオ その話はするんじゃない！

ミズノ するのは勝手でしょ。大体、言われるようなことをするのが悪いんですよ。

イイオ それは、そうだけど。

ミズノ じゃあ教えましょうよ。

イイオ だって、あんまりいい思い出じゃないし。

ミズノ すいませんね、思い出させて。で、バイトって時給いくらなんすか。

イイオ あまり言いたくない。

ミズノ そりゃそうでしょうね。だって先輩の歳だったらそこそこもらってるはずでもんね。

イイオ うん。でもサカタ隊長がきつと何とかしてくれるし、頑張ってたらいつか必ず評価してくれるから。頑張る。

ミズノ よく今まで続いてますね。僕だったら無理っすわ。

イイオ うん。

ミズノ そういや、施錠点検しないんすか？

イイオ だってサカタ隊長にするなって言われたし。

ミズノ でも、やらなきゃいけないんじゃないすか？

イイオ うん、施錠点検はやらなきゃいけない。

ミズノ じゃあやらなきゃいけないっしょ。

イイオ うん、でもサカタ隊長にやるなって言われた。

ミズノ じゃあイイオさんは、僕に違うこと教えたってことっすね。

イイオ そういうわけじゃない！

ミズノ え、じゃあ何で施錠点検しないんすか？

イイオ サカタ隊長にするなって言われた。

ミズノ　　イイオさん、どつちかつすよ。自分の間違い認めるか、認めないか
つすよ。
イイオ　　でも、施錠点検はしなきゃいけない。
ミズノ　　じゃあ、やりましょうよ。

イイオ、施錠点検をする。

イイオ　　（それぞれの扉に触りながら）施錠よし！
ミズノ　　うーわ、やっちゃった！　何でやったんすか。
イイオ　　だって、警備員は施錠点検をしなきゃいけないから！　あと、ミズ
ノ君が何でしないかって訊いてきたから。
ミズノ　　僕のせいにしてないでくださいよ。触んたってのに触る方が悪い
でしょ。

イイオ　　でも、触らないといけない。
ミズノ　　触んたってのに何で触るんすか。もしかしてこん中、気になってま
す？

イイオ　　気になってない。

ミズノ　　じゃあ、一緒に入りませんか？

イイオ　　ダメ、扉の中は入ってはいけない。

ミズノ　　じゃあ、自分だけ入るっす。

イイオ　　入っちゃいけない！

ミズノ　　でも、入ってみたくありません？

イイオ　　ここは入るなって言われてる！

ミズノ　　何で。

イイオ　　何で。

ミズノ　　いや、何でこの中入っちゃいけないんすか。

イイオ　　ここには、何かがあるんだよ。

ミズノ　　何かがあるんすか。

イイオ　　わからない。

ミズノ　　何かあるからって、何で入っちゃいけないんすか。

イイオ　　それはわからない。

ミズノ　　じゃあ理由にならないっすね。

イイオ　　ごめん。

ミズノ　　この扉、つながってるんすかね。

イイオ　　それもわからない。

ミズノ　　何でここに立ってるんすか。

イイオ　　契約で、営業が決めたことだから。

ミズノ　　あんまり理由になってないすね。

イイオ　　でも、立たなきゃ。

ミズノ　　だから何で！

イイオ　　わからない。

ミズノ 何年もいる人が知らないって、どうなんすか。

イイオ とりあえず、立たなきゃいけない。

ミズノ イイオさん、そういうのやめましょう。マジでいい加減です。会社もいい加減だし、先輩もいい加減だし、マジでつまんねえ。

イイオ ごめん。

ミズノ ごめんとかどーでもいいです。

イイオ でも、鍵は預かってるんだ。開けようと思えば開けられる。

ミズノ 開けてみてくださいよ。

イイオ 開けたら怒られるよ。

ミズノ じゃあ何で鍵、持つんすか。

イイオ 鍵を管理するのは、僕らの仕事だよ。

ミズノ いやいや、別に僕らじゃなくていいでしょ。

イイオ じゃあ僕らは、何をしたらいいかわからない。

ミズノ 立ってるだけでいいんじゃないすか？

イイオ 扉の中に入りたいと思う？

ミズノ いや、別に。興味ないっす。

イイオ でも、君はさっきから部屋の中のことばっか訊いてくるから、てっ

きりそうなんだと思ってた。

ミズノ 時計つけちゃいけない理由の方が知りたいっす。

イイオ あー、わからない。

ミズノ そっすか。

イイオ 僕、このことが全部、疑問に思えてきた。

ミズノ 自分は最初から、全部疑問でした。

イイオ 僕には、誰も教えてくれない。誰が契約先なのか、どうしてここには誰もこないのか、どうして時計をつけちゃいけないのか。この部屋に何があるのか。

ミズノ めんどくさ。

イイオ でも、僕は立たないといけない。

ミズノ え、そうなんですか？

イイオ うん。だってここで立哨しなきゃいけないから。

ミズノ (話を遮って) じゃあ、僕休憩行きますね。

イイオ ミズノ君は、仮想時間十八時まで立たなきゃいけないよ。

ミズノ いやあ。だって、イイオさんは立たないといけないってわかってるわけ。

イイオ うん。

ミズノ 僕にはまだ、理由がわかりません。

イイオ ミズノが立ち去る。

イイオ 再度施錠点検をする。

イイオ (それぞれの扉に触りながら) 施錠よし！

と、何度も大声で施錠点検をする。誰かに対してアピールをしているように見える。
しばらくすると立ち止まって、真ん中の扉をじっと見つめる。

イイオ

どうして立たなくちゃいけない。ご契約先に言われたから。ご契約先は理由を僕に言った？ 言っていない。じゃあ誰に言った？ サカタ隊長。ううん、違う。だってサカタ隊長はそしたら、僕に教えなくちゃいけないし。じゃあ、本社？ ううん、違う。だって本社はそしたら、僕たちに教えなくちゃいけないし。じゃあ何で僕はここに立たなくちゃいけないことを知ってる？ でも僕はここに立たなくちゃいけないことを知ってる。僕は知らないことを知ってる。知らないことを知ってるのに、ここに立たなくちゃいけない理由を知らない。理由って？ 理由は、どうしてこれが、そうなったのかの説明。説明は、どうしてこれが、そうなったのかを他の人に教える。教えるは、学校とか、マナー講習の先生がする仕事。仕事は、お金をもらって、やらなくちゃいけないことをすること。やらなくちゃいけないことは、ここで立哨をすること。立哨は、ここで警備をすること。警備は、ご契約先の財産を守ることに。財産は守るモノ。

イイオはぶつぶつと独り言を言いながら扉の中に入る。

扉が閉まると、大きな警報音が鳴る。

ミズノが登場する。

ミズノ

イイオさーん。

イイオからの返事はない。

ミズノ

イイオさーん。どことすかあー。マジでキモいつすよ。存在価値欲しかかったら、出てきてくださいーい。

ミズノが去る。

彼が戻ってくる前に、イイオは別の扉から出てくる。上半身は肌着で、タオルを首から下げている。何事もなかったように立哨をする。勿論、ミズノがここへ来たことに気づいていない。

ミズノが戻ってくる。

ミズノ

どこ居たんすか？

イイオ

ずっとここにいたよ。

ミズノ

勘弁してくださいよ。その格好、マジでないすわ。

イイオ

やっぱり、きちんとアイロンをしないとイケないかな。

ミズノ 何を。

イイオ 制服。きちんとした方が、本社からの受けもいいかなって思う。本題逸らさないでもらえますか。

イイオ でも、本社の人が来たら、やっぱり見られるだろうし。

ミズノ わかりましたから、勝手にやってください。

イイオ でも、やっぱり身なりは大事だってサカタ隊長も言ってたし。

ミズノ (ここでミズノ、気づく) イイオさん、シャワー浴びました？

イイオ やっぱり、臭うかな。

ミズノ 全然臭わないっす。

イイオ でも、さっきは臭いって。

ミズノ イイオさん、シャワー浴びました？

イイオ 浴びてない。

ミズノ イイオさん、シャワー浴びました？

イイオ だってここから離れることは契約違反だから。僕はここに居た。は？

イイオ だってここから離れることは契約違反だから。僕はここに居た。

ミズノ キモッ。え、何で認めないんすか？ キモッ。キモすぎてキモッ。

イイオ でも、何だったんだらうね。さっきの音。

ミズノ イイオさんが部屋に入ったからでしょ。

イイオ 入ってない！

ミズノ そっすか。イイオさんがそう言うなら、そうなんすね。

イイオ サカタ隊長、怒ってる？

ミズノ 大激怒です。多分殺されますよ。

イイオ そっか。一体原因は何なんだらう。

ミズノ イイオさんがバグったせいです。

イイオ バグったって、何か機械みたい。

ミズノ いや機械っすよ。

イイオ ひどい。

ミズノ 頭おかしいでしょ。

イイオ あー、昔サカタ隊長が入社してきた時にも言われた。確か平成二十六年の四月。僕が初日に教育係をした。

ミズノ で、どこ行ってたんですか。

イイオ どこにも行ってない！

ミズノ そっすか。

イイオ これ以上は何も言わないで！

ミズノ 乳首立ってますよ。

イイオ 立ってない。

ミズノ とりあえず、制服着てください。

イイオ あー、でも、どこにあるかわからない。

ミズノ どうするんすか。

イイオ どうしようか、ずっと考えてた。

ミズノ マジで制服紛失はやばいっしょ。
イイオ でも、サカタ隊長も一回無くしたことがあるし。
ミズノ 今関係ないでしょ。
イイオ でも、僕が一回階級章をなくした時は、すごく怒られた。
ミズノ 二回目はヤバイでしょ。

イイオ、別の扉に入ろうとするも、ミズノに止められる。

ミズノ ちよいちよいちよい！ 入ったらまずいって。

イイオ でも、この中にあるかもしれない。

ミズノ この部屋には入ってないのに、あつたらおかしくないすか。

イイオ あ、入ってない！

ミズノ ならこの部屋に入る必要ないでしょ。

イイオ でも、シャワーした時に脱いだし。

ミズノ この中、シャワールームなんすね。

イイオ あ、違う！

ミズノ 勘弁してくださいよ。時間のムダなんすよ。

イイオ あー、でもサカタ隊長怒ってるのかあ。

ミズノ 僕も怒ってますけど。

イイオ あー、ごめんね。

ミズノ 何で謝るんすか。

イイオ だって、僕のことを気持ち悪がってるし。

ミズノ キモいですし、生きてる価値ないと思ってます。

イイオ あー、悲しくなってきた。でも、今から仮眠の時間だし。

ミズノ は、イイオさんの仮眠時間って、四時でしょ。

イイオ うん。もうすぐ四時だよ。

ミズノ そんなわけないでしょ。さっき十五時半だったでしょ？

イイオ うん、もうすぐ午前四時。

ミズノ 中に、時計があるんですね。

イイオ いや、僕は開けてない！

ミズノ 正直になりましょうよ。

イイオ もう何も言わないで！

ミズノ じゃあ、隊長んとこ戻りますね。

イイオ え、戻るの。

ミズノ 戻りますけど。

イイオ、硬直する。

ミズノ いつも自分の都合が悪くなったら固まるでしょ。ムカつくんですよね。こうしたら許されるって思ってるのが見え見えなんすよ。こっちは何も言えなくなりますもん。で、サカタさんにキレられて、ミウラさんから見下されるんすよね。イイオさん、生きてて楽しい

すか？

イイオは何も答えない。

ミズノ いや、絶対楽しくないでしょ。友達います？
イイオ わからない。

ミズノ 普段何してるんすか、家で。

イイオ 家に帰ったら、施設検定の勉強して、次の日の仕事の準備してる。

ミズノ 嘘でしょ。見栄張らないでください。

イイオ どこ行くの。

ミズノ 防災戻ります。

イイオ ミズノ君は、仮想時間十八時まで立哨だから、離れちやいけないよ。
ミズノ 何で立たなきゃいけないんですか。

ミズノ、防災センターへ戻る。

イイオはしばらくしてから、静かに扉の中へ入る。

再び警報音。

サカタの叫び声。

サカタ イイオオオ！

サカタ登場。

少し遅れてミズノも登場する。

サカタ イイオオオ！

サカタ、三つの扉全てを叩く。

サカタ さっさと出てこいボケカス！

ミズノ イイオさん、出てきてくださいよ。

サカタ どの扉に入ってるかわかんねえか。

ミズノ 知るわけないでしょ。

サカタ そうか。ならここで声かけるしかねえよな。

イイオ、扉から顔を出す。肌着の上から洒落た上着を着て、帽子をかぶっているが全然似合っていない。

ミズノとイイオ、目が合う。

イイオ、再び扉の中に戻る

ミズノ あの扉っす。

サカタ 本当か。

ミズノ 何か変な格好になってました。
サカタ 本当か。

サカタ、ドアノブに触れる。
鍵は開いている。

サカタ おい、これどうしたらいいんだ。なあ、ミズノ。(中を覗く)中は、
暗いな。何も見えねえぞ。おい、ライト照らしてくれ。

ミズノ ライトってどこにあるんすか？

サカタ もういい。ちよつと中入ってくるわ。お前ちよつとこれ持っとけ。

ミズノは無線機、鍵を受け取る。

ミズノ あ、はい。

サカタ アイツが出てきたら、取り押さえとけよ。

サカタが中に入る。

ミズノ うるせー！ 何これマジ不快。

イイオイイオ別の扉から出てくるも、ミズノを見た瞬間扉の中に
戻る。

ミズノ え、キモ！

イイオ え、キモってひどい。

ミズノ 自分の恰好見て言ってくださいよ。

イイオ やっぱり本社の人、来るのかな。

と、イイオは再度扉の中に戻ろうとする。

ミズノは彼を捕まえる。

ミズノ ちよいちよいちよい。

イイオ やっぱり、制服がなかったら本社の人、来るのかな。

ミズノ その恰好、何すか。

イイオ 来週、女の人とデートするから。

ミズノ いや、何でそんな格好してるんすか。

イイオ だって、来週デートの約束があるから。ミズノ君はこんな格好しな
いの？

ミズノ しないっす。

イイオ うん。

ミズノ とりあえずこの中に何があるんか、さっさと教えてください。

イイオ ミズノ君はやつぱり、扉の中に入りたいと思ってる？

ミズノ いや、絶対入りたくないっす。

イイオ でも、ミズノ君はあの中のことばかり聞いてくるし。

ミズノ そりゃそうでしょ。中に時計があるんでしょ。

イイオ あ、わからない！

ミズノ いや、中にいたんだからわかるでしょ。

イイオ あ、だってここから離れることは契約違反だから。僕はここに居た。

ミズノ あと、何でこつちから出てきたんすか。もしかして全部同じ部屋っすか。

イイオ だってここから離れることは契約違反だから。僕はここに居た。

ミズノ 今、僕から逃げようと思いましたね。

イイオ だってここから離れることは契約違反だから。僕はここに居た。

ミズノ あ、はい。隊長、今中にいますよ。

イイオ そう。サカタ隊長、僕が入ったらきつと怒るのに。

ミズノ うん、そうっすね。

イイオ あのー、手を離してほしい。

ミズノ たいちよー！ 捕まえたっすよー。

イイオ 捕まえたって、何か犯罪者みたいで嫌。

ミズノ 犯罪者みたいなもんっす。

イイオ 大声出したらご契約先に迷惑がかかるよ。

ミズノ たーいちよー！

別の扉が開き、サカタが奇妙なダンスをしながら登場。
警報音が止まる。

サカタ 蚊。

イイオ サカタ隊長がおかしくなった！

サカタ 蚊。

イイオ はい、制服を紛失してしまいました。

サカタ 蚊。

イイオ どこにあるかはわかりません。

サカタ 蚊。

イイオ はい、仮眠に入ります。

サカタ 蚊。

サカタ、また別の扉の中に戻る。
警報音が鳴る。

イイオ あ、サカタ隊長。その中は入ってはいけないうって、ご契約先から言

ミズノ われていきます！

え、怖、キモ！ 鳥肌やばっ！

イイオ そうだね。すごく変だった。
 ミズノ いやいや変どころじゃないっすよ。あれは精神死にましたね。
 イイオ あー、精神が死んだら、暴言を吐くこともないのかな。
 ミズノ 自分のことしか考えないんすね。
 イイオ でも、いつも暴言を言われてきたから、自業自得だとも思う。
 ミズノ マジでクズっすね。
 イイオ わからない。
 ミズノ イイオさん、扉の中って何があるんすか？
 イイオ 何もない。
 ミズノ シャワーは？
 イイオ あ、知らない！ ミズノ君、この扉に興味を持つのはやめた方がいいと思うよ。ご契約先に迷惑がかかるし。
 ミズノ あ、僕入りたくないんで。
 イイオ うん。
 ミズノ あ、隊長。

イイオ、逃げるように扉へ入る。
 サカタが扉から出てくる。

サカタ 何もねえか。
 ミズノ いや、何もねえことはないっす。
 サカタ 何かあったのか。
 ミズノ あったってか、サカタさん大丈夫すか？
 サカタ 大丈夫じゃねえよ。それくらい分かれよ、ボケ。
 ミズノ あ、よかった。いつものサカタさんに戻った。
 サカタ それよりよ、イイオさんはどこだ。
 ミズノ (違和感を覚えつつ) いや、さっき戻ってきて、また扉の中入りま
 したよ。
 サカタ お前、何でイイオさん引き留めなかったんだよ。
 ミズノ すいません。でも、しょうがなくなitusか。
 サカタ 口答えすんな！ イイオさん引き留めろって言っただろ！
 ミズノ イイオさんって何すか。
 サカタ イイオさんだろ！
 ミズノ いや、おかしくないすか。
 サカタ 何がおかしいんだ言ってみろ。
 ミズノ だって、イイオさんのこといつも呼び捨てじゃないすか。何でいき
 なりさん付けしてるんすか。
 サカタ 俺がいつイイオさん呼び捨てにしたんだよ。
 ミズノ ついさっき。
 サカタ あ？

イイオが別の扉から出てくる。
サカタの姿を見て、急いで立哨をする。

サカタ イイオさん！ 一緒に施錠点検やりましょう！

イイオ 施錠点検！

サカタ 俺も、この扉の施錠点検、めちやくちや大事だと思えます。

イイオ うん、すぐく大事だよ。警備員の大切な仕事の一つなんだ。

ミズノ サカタさん、そこ触んなって言われてるところでしょ。

サカタ さっきからうるせえんだよ。今からイイオさんが施錠点検するんだよ！ 仕事の邪魔すんな。

ミズノ あ、そつすか。

イイオとサカタ、扉のドアノブをよく見る。

サカタ (ミズノに向かって) チンタラすんな！ 何も知らねえんだから、

ちっとは仕事覚える姿勢見せるよ！

ミズノ 何で俺ばっか。

イイオ (鍵を見せながら) この扉はマスターキーじゃないと開けられないから気を付けて。こういう南京錠だとシリンドーに入らないから。

サカタ そうなんですネ。

イイオ 施錠点検をするときは、ドアの隙間を見て。ライトを当てて、デッドボルトが出るかどうか確認したら、時間の節約になるから。で、そのあとにドアノブを触って。

イイオ、施錠点検をする。扉は開く。

イイオ 施錠よし！

ミズノ あの、開いてますよね。

サカタ イイオさん！ 開いてますよ！

イイオ うん、開いてるね。

サカタ 俺、ちよっと内部検索してきます。
イイオ 了解！ よろしくおねがいします。

サカタ、扉の中に入る。

再度警報音が鳴り響く。

ミズノ ふざけてるんすか。

イイオ うん、内部点検は必ず2名でやらなきゃいけないのにね。

ミズノ でもイイオさんだって一人で入ったじゃないすか。

イイオ 入ってない。

ミズノ 僕見ましたよ。

イイオ、硬直する。

ミズノ ウザいっすね。

イイオ ウザくない。

ミズノ いやまあ、どっちでもいいんですけど。今何時ですか。

イイオ もうすぐ四時二十分になる。

ミズノ それって、現実のすか。

イイオ あ！

ミズノ (防災センターに向かって) たいちよー。サカタたいちよー。

イイオ あ、あんまり叫んだらご契約先に迷惑がかかるよ。

ミズノ イイオさんの言うことなんか聞く気ないんで、ずっと黙っててください。

イイオ、施錠点検をしながら全ての扉を開放する。

イイオ 施錠よし！

ミズノ 意味あるんすか、それ。

イイオ やっぱりミズノ君もこの仕事、クソだって思ってるんだね。

ミズノ クソっす。

イイオ あー。

イイオ、硬直する。

イイオ ミウラさんは、僕のこと見下してるのかな。

ミズノ どっからどう見てもしてますよ。今まで気づかなかったんすか。

イイオ そんな人だと思えないし、今も、信じられないし。

ミズノ じゃあ一生信じててください。

イイオ、扉の中に入る。

ミズノ 一生そこに居ろよバーカ。出てくんな。お前の相手疲れんだよ。

しばらくすると、イイオが制服姿で、同じ扉から出てくる。

ミズノ 出てくんないよ。(臭いに気づき) 臭っ！ 何食ったらそんなに臭く

なるんだよ。お願いだからよ、もう一生中で閉じこもってるよバーカ。

イイオ 俺、臭いか。

ミズノ 臭い。もう無理。シャワー浴びろ。死ね。

イイオ 死ね？

ミズノ お前ダルいし臭えんだよ！

イイオ ミズノ、何でそんなこと言うんだよ。
ミズノ だからイイオさんがダルくて臭いからだって！
イイオ じゃあイイオに言えよ。俺に言うなよ。傷つくだろ。
ミズノ もう喋らないでください。ウザい。
イイオ 俺は誰だ。
ミズノ イイオさんでしょ！
イイオ サカタだ！
ミズノ イイオさんが隊長だったら僕は総理大臣ですよ。
イイオ お前な、どこをどう見たらイイオに見えるんだよ。
ミズノ どこをどう見てもイイオさんでしょ。

イイオ、ミズノを思いつきり蹴る。

イイオ まだわかんねえか。俺は誰だ。
ミズノ え、サカタさん？
イイオ 喧嘩売ってんじゃねーよ！
ミズノ え、何で。
イイオ お前はな、マシな方だっと思ってたんだけどな。まさかイイオと俺
ミズノ を見間違えるなんてな、喧嘩売ってんだな。
イイオ え、本当に隊長なんすか？
ミズノ だからさっきから俺だっと思ってんだろが。聞こえねえんならよ
イイオ う、テメエの耳の穴（懐中電灯を持って）これで広げてやろうか。
ミズノ それか、イイオにケツの穴広げられたいか！
イイオ パワハラはやめてください。
ミズノ 口には気をつけろよ。
イイオ えっと、サカタさん。
ミズノ サカタ隊長だろ。
イイオ はい、サカタ隊長。イイオさんどこっすか。
ミズノ アイツまだ中にいるのか。
イイオ そっすね。ちなみに、この中ってシャワールームなんすか？
ミズノ は、シャワーは向こうだろ。
イイオ じゃあこの中、何なんすか。
ミズノ 何もねえよ。
イイオ いや、でもイイオさんシャワー浴びてましたよ。
ミズノ お前はバカか。勤務中にシャワー浴びる奴がいるか。
イイオ いや、マジっす。
ミズノ アイツ勤務中にシャワー浴びてたのか。
イイオ 浴びてました。
ミズノ もう我慢できねえ。今日という今日は絶対に許さねえぞ。
イイオ よし、じゃあ閉じ込めましょつか。
イイオ お前、それはやりすぎだろ。

ミズノ だっていらないでしょ。
 イイオ いらねえけど、常識考えろよ。
 ミズノ いや、まあ冗談っすよ。
 イイオ 俺はもう一回中を探しに行くから、何かあったら頼むぞ
 ミズノ あ、すいません、今何時すか。
 イイオ 確か四時半ちよっと回ったとこだぞ。
 ミズノ あざっす。

イイオ、扉の中に入る。
 また警報音が大きくなる。
 すると、別の扉からサカタが出てくる。

サカタ あ。
 ミズノ (深呼吸をして) イイオさんっすよね。
 サカタ うん。
 ミズノ サカタ隊長、中にいますよ。
 サカタ サカタ隊長は自分も入ったのに、僕に怒るんだろうな。
 ミズノ どうするんすか、これから。
 サカタ やっぱり、謝らなくちゃいけないよね。
 ミズノ まあ、そうですね。
 サカタ 本社からも誰か、来るよね。
 ミズノ アイツら暇っすからね。
 サカタ 暇で何もしてないくせに、給料は僕らなんかより高い。
 ミズノ イイオさん、あれっすもんね。僕より給料低いっすもんね。
 サカタ 何で知ってる。
 ミズノ 僕的には、妥当っすね。
 サカタ でも、ミウラさんはこの仕事は安い給料だって、昔言ってたし。
 ミズノ 知ってます。で、どうするんすか。
 サカタ でも、これ以上は給料も下げられないはずだし。
 ミズノ いやいや、僕はイイオさんの人生について言ってるんですよ。
 サカタ 僕の人生。
 ミズノ 今、すっげえチャンスっすよ。ほら、扉を塞いで。
 サカタ あああ、どうしてかわからない。
 ミズノ うるせえスペシャルめ。黙って言うこと聞いてりゃいいんだ。
 サカタ でも、サカタ隊長がまだ中にいるし。
 ミズノ いやあ、面白いっすね。僕、棒探してきますね。何ならイイオさん
 も中、入っついてください。

ミズノ、防災センターに戻る。

サカタ ミズノ君！ 君はまだ休憩の時間じゃないよ！

サカタが出てくる。
警報音が止まる。
イイオの姿に驚く。

イイオ
俺!?

サカタ
イイオです。

イイオ
お前、イイオなのか。

サカタ
はい。サカタ隊長ですよね。

イイオ
お前、俺は今、どんな姿してる。

サカタ
僕です。

イイオ
お前、俺か。

サカタ
やっぱりちよつと臭いですね。

イイオ
屈辱以外の何者でもねえ。

サカタ
でも、やっぱり戻った方がいいですよね。

イイオ
どうしたら戻るんだよ。

サカタ
あー、やっぱり、この扉が原因ですよね。

イイオ
よし、じゃあ入るぞ。

サカタ
でも、ここに入ったら契約違反になります。

サカタ、イイオの頭を叩く。

イイオ
お前なんて辞めちまえ!

サカタ
辞めたら生活できませんです。

イイオ
うるせえ、とつと先に入りやがれ。

サカタ、イイオを無理やり扉の中に押し込む。
警報音が鳴る。

サカタは黙ったまま扉の中に入る。
警報音が鳴る。

イイオも扉の中に入る。
警報音が大きくなる。

ミズノが登場。

ミズノは棒で扉を塞ごうとする。

しかし、構造上の関係で扉は塞がらない。

しばらく試行錯誤していると、無線から誰かの声が受信される。

総合管理センターより、警備さんどうぞ。

無線

からっぽ

無線

無線

無線

無線

無線

無線

無線

ミズノ え。
無線 総合管理センターより、警備さんどうぞ。
ミズノ あれ、これ俺が出てもいいの？

ミズノ ミズノ、扉を叩く。
サカタ隊長、無線鳴ってますよー。出てきてくださーい。
と、サカタが扉から顔を出す。
警報音が普通に戻る。

サカタ 呼んだか？
ミズノ あ、イイオさんはちよつと。中入っててください。
サカタ まだイイオなのか、俺。

ミズノ、サカタを中に押し込む。
警報音が大きくなる。

無線 総合管理センターより、警備さんどうぞ。
ミズノ はい、どうぞ。
無線 現状の報告を願います。
ミズノ 何すか、報告って。
無線 現在の、状況の報告を願います。
ミズノ あー、すいません。わかりません。
無線 分からない件、承知しました。
ミズノ サカタ隊長、いい加減出てきてください。じゃないと、鍵、閉めま
すよ。

無線 総合管理センターより、警備さんどうぞ。
ミズノ はい。
無線 現状の報告を願います。
ミズノ だからなんだよ、現状の報告って。俺、知らねえし。
無線 現状の報告を願います。
ミズノ すいません。ちよつと僕じゃあわかんないです。
無線 現在扉の中に、2名入室中で間違いないでしょうか。
ミズノ あ、はい。どっかで見てるんですか。
無線 二名の情報を共有願います。
ミズノ え、知らないんですか。えつと、サカタ隊長と、イイオさんです。何
でこうなったかはよくわかりません。
無線 承知しました。動機についてはこちらで把握済みです。
ミズノ え、何ですか。
無線 共有については、弊社の個人情報保護規定により出来かねます。

ミズノ いや、教えろよ。二人の個人情報とか世界的にどうでもいいし。

ミズノ、扉を片っ端から叩く。

ミズノ 隊長、出てきてくださいーい。僕じゃよくわかんないつすよー。
無線 総合管理センターより、ミズノさんどうぞ。

ミズノ え、俺？ はい、どうぞ。

無線 今後の対応について、こちらから指示を出します。

ミズノ いやいや、その前によく僕の名前知ってますね。

無線 弊社の個人情報保護規定によりお教え出来かねます。

ミズノ あ、もうわかりました。で、何すりゃいいんすか。

無線 扉を施錠してください。

ミズノ 閉めるんすか？

無線 はい、お願いします。

ミズノ いやいや、二人どうするんすか？

無線 施錠してください。

ミズノ 三つとも？

無線 施錠してください。

ミズノ、扉を全て施錠する。
すると警報音が止まる。

無線 確認しました。ありがとうございます。

ミズノ いや、いつすよ。クッソ茶番でしたね。

無線 以上、総合管理センター。

ミズノ あ、僕帰っていいですか？

無線 はい、どうぞ。

ミズノ よっしゃあ、あざっす。

ミズノ、無線を置いて急いで防災センターへ戻る。

中から誰かが扉を叩いている。

扉の中からサカタが登場。

サカタ ミズノ！ お前何で閉めた！ どこにいる！

もちろんこの段階でミズノの姿はなく、サカタは彼を探す。

無線 総合管理センターより、サカタ隊長どうぞ。

サカタ (恐る恐る) はい、どうぞ。

無線 こちら総合管理センターです。

サカタ はい、いつもお世話になっております。

無線 扉の施錠を願います。
 サカタ しかし、まだ中にはウチのイイオ隊員が残っております。
 無線 扉の施錠を願います。
 サカタ 話を聞いてください。
 無線 そういう契約になっています。
 サカタ まあ、契約なら。しかし。
 無線 扉の施錠を願います。
 サカタ 承知しました。

サカタ、渋々扉を施錠すると、警報音が止まる。

サカタ 今、発報が解除されました。
 無線 了解しました。総合管理センターよりサカタ隊長へ。責任の処遇についてお答えください。
 サカタ は、それにつきましましては後日、本社よりお答えいたします。
 無線 責任の処遇についてお答えください。
 サカタ 承知しました。本社に確認し、すぐに報告させていただきます。

ミズノがポロシャツにスラックスの出で立ちで登場。スマホを操作している。

ミズノ あ、イイオさん。僕帰りますね。
 サカタ お前何で制服脱いでんだよ。
 ミズノ いや、だって無線の人が帰っていいって。
 サカタ んなわけねえだろ。さっさと着替えるボケ！
 ミズノ 着替えません。
 サカタ は。
 ミズノ 僕、今日で仕事辞めますんで。
 サカタ でも今日いきなり仕事辞めるとかできねえぞ。社会人としてなあ、常識だぞ。
 ミズノ いやもう無理す。てことで、お疲れっした。
 サカタ おい、ちよつと待て！

ミズノが軽やかに出ていくと、サカタも追いかける。
 中央の扉が開くと、ミズノが出てくる。

ミズノ あれ。

ミズノ、扉の中に戻る。
 今度は右の扉から出てくる。

ミズノ あれ。

また扉の中に戻る。

さらに今度は左の扉から出てくる。
呆然としてみると、警報音が鳴る。
サカタが扉の中から出てくる。

サカタ 何で扉の中に入ってたんだ！

ミズノ いや、僕帰ろうとしたら。

サカタ 言い訳すんな！

ミズノ いや、ホントなんです。僕も何でここにいるんかわからないです。

サカタ 言い訳すんな！ 殺すぞ！

ミズノ は、言い訳とかしてませんし！ 大体扉ん中って何すか！ 別に僕扉の中とか入ってませんし！ ていうかサカタさんこそ扉に入ったじゃないすか。矛盾すよ矛盾。

サカタはミズノを扉の中に引きずり込もうとする。

サカタ 俺がいつ入ったんだよ！

ミズノ イイオさん探しに入ってたでしょ！

サカタ は。何でイイオ探さなきゃなんねえんだよ。イイオだったら扉の前で立ってるぞ！ お前と違ってな！

ミズノ そんなわけない！ イイオさんが扉ん中入って、サカタさんは

イイオさんを探しに扉の中入った！ 痛いんで引っ張らないでください！

サカタ 黙れ！ 今日絶対許さねえぞ！

ミズノ 何で許されなきゃなんないんすか！ 僕が言ってることが正しいのに！

僕だけがまともなのに何で！ 嫌だ！ 嫌だ！ 嫌だ！ 嫌だ！

サカタ、ミズノを扉の中に引きずり込む。

警報音が止み、空間に静粛が訪れる。

地下に吹き抜ける風の音がする。

中央の扉がゆっくり開き、イイオが出てくる。

警報音が鳴るが、イイオが鍵をかけると音は止む。

彼は何事もなかったように立哨の姿勢をとり、警備を始める。

暗くなる。

インターフォンの音。

終わり

■ 作品について

著作 井上 明紀
初演 2021年

本作品に関するお問い合わせ、上演等での使用については劇団演陣ホームページ (<http://www.gekidanenjin.net/>) に掲載のメールアドレスにご連絡ください。